



人生100年時代 『目を開けて、もっと私を見て』 介護スタッフちくわの見聞録②

「3年に1度、介護保険制度は見直されます。」

財務省の財政制度等審議会（令和4年4月13日）での令和6（2024）年度介護報酬改定に関連する検討事項として、左記が論点として出されています。

①要介護1・2の高齢者を軽度者とする
要介護1・2の方は、要支援1・2の枠組みである総合事業になります。介護保険の総合事業は、市町村が地域の実情に応じてサービスの運営基準や報酬などを独自に定めることもできるもので報酬単価は下がる事が予想され、事業所としては苦しい処です。

②居宅介護支援（ケアマネジメント）に利用者負担を導入

現在は居宅介護支援、ケアプラン作成等サービスを必要とする要介護の利用者が、積極的にサービスを活用する目的の為、利用者負担はありません。

③介護サービスの利用者負担を原則2割とする

平成12（2000）年にスタートした介護保険制度は、創設から20年以上が経過しました。介護保険費については、急速

な高齢化の波を受けて、予想を上回るペースで増加してきました。今後も75歳以上の高齢者が2030年頃まで増加し、その後も介護認定率や一人当たりの介護給付費が殊更に高い85歳以上人口が増加していくことが見込まれます。今後介護保険制度を継続・運用していくためには、財政面できちんと見直しを行う必要性が出てきてしまったというのが現状です。「お風呂に入れて幸せ」

通所介護（デイサービス）では、要介護状態にある方を安全に送迎、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練を日帰りで行っています。また、職員や利用者さん同士が他愛もない話をして笑顔になる居場所でもあります。

「一人暮らしの方が多い」

娘さんや息子さんと暮らしている方もいますが、日中独居や一人暮らしの方が多く利用されています。スタッフの見守りにより、体調の変化の早期発見もできます。

「みんなと食べるからご飯が美味しい」
笑顔で話されていた方は、一人暮らしでした。熱中症から体調を崩し入院。退院後は脚力が落ちて車イス生活となり、寝たきりになり施設に入所されました。

また、ある方は階段上り下りできていたのに自宅のベッドから落ちて大腿骨を骨折しました。救急車に乗る前に「迷惑

かけてごめんね。」と痛みをこらえて話されていた表情は忘れられません。退院後は階段を上ることができなくなりました。施設へ入れられ、会えなくなりました。

住み慣れた場所に住み、食べたい物を食べ、入浴ができるようにするには自助努力していかねばならないのですが、認知機能障がい等で意欲低下されている方も多くいます。

人生100年時代と言われますが、お金がないと介護も受けられないのかなと介護報酬改定に関連する検討事項を読んで思いました。

年金暮らしの方が多く、もし利用者負担が増えたら物価高騰する中、週2回通所し入浴できたのに、週1回に減らす等利用を控える方が増えることが懸念されます。

「ひとりの人として尊重し、その人の立場に立つて考え、ケアを行おう」

長生きして良かったと言えるような社会になっているのか、なるのか。

高齢者の方が、生きていてよかったですという生きがいをもてるように過ごして頂くには、どうすれば良いか。その人らしい生活とは・・・

介護スタッフとして、その方を見つめ寄り添って一緒にトンネル先の光を探し求めて歩いていきます。